【小学部】

学級活動（人権）学習指導案

1　主題　相手の気持ちを考えた言葉のキャッチボール
　　～こんなときの「よい言い方」を考えよう～

2　主題設定の理由（省略）

3　ねらい

・日常生活で出会う様々な場面での「よくない言い方」と「よい言い方」を考えさせ，相手の気持ちを考えて話をしようとする態度を育てる。

・「よくない言い方」のどこに問題があるのか，その理由を考えさせることで，どうすれば「よい言い方」にすることができるか考えさせる。

4　指導計画（全 10 時間）

（1）　これまでの学習

・より気持ちのよい会話とは？（「よい言い方」と「よくない言い方」）・・・・・・・・・・１時間

・こんなときの「よい言い方」を考えよう（友達に何かをしてもらった時）・・・・・・・・１時間

・こんなときの「よい言い方」を考えよう（友達の誘いを断る時）・・・・・・・・・・・・１時間

・こんなときの「よい言い方」を考えよう（友達に注意する時）・・・・・・・・・・・・・１時間

・こんなときの「よい言い方」を考えよう（友達が落ち込んでいる時や失敗した時）・・・１時間

・こんなときの「よい言い方」を考えよう（もらったものが気に入らなかった時）・・・・１時間

（2）　現在の学習

・相手の気持ちを考えた言葉のキャッチボール
　～こんなときの「よい言い方」を考えよう（いやなことを言われた時）～２時間（本時２／３）

（3）　これからの学習

・これまでに学習したことの振り返りをしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

5　本時の学習

（1）　目標

・いやなことを言われた時の「よくない言い方」と「よい言い方」を考えさせる。

・学習した「よい言い方」で，様々な場面に合わせて言い方や表情を考えて友達や教員と言葉のキャッチボールをしようとする意欲を高める。

（2）　普遍的な学習のテーマ・・・コミュニケーション力の育成，自尊感情の育成

（3）　展開

展　開	学習活動	指導上の留意点	評　価
導　入 (3分)	1　前時の学習の振り返りをする。		

展　開 (20 分)	2　今日の学習の題材を知る。 「耳に何か変なのつけてる～！」と言われた時。 3　「よくない言い方」を考える。 4　「よい言い方」を考える。	2－1　場面をイメージしやすいように，T2，T3 によるミニ劇で具体的な場面設定を知らせる。 2－2　セリフと気持ちを区別するために，気持ちは吹き出しに書いて提示する。 3－1　なぜよくないのか，理由も考えさせるようにする。 3－2　意見が出てこない時は，例をいくつか提示したり，T2 や T3 に例を挙げてもらったり発表してもらったりする。 4－1　意見が出てこない時は，例をいくつか提示したり，T2 や T3 に発表してもらったりする。	2　本時の学習の狙いを理解することができる。 （知識的側面） 3　「よくない言い方」を考えて，発表できる。 （技能的側面） 4　「よい言い方」を考えて，発表できる。 （技能的側面）
まとめ (15 分)	5　本時の学習を振り返り，考えた「よい言い方」でロールプレイを行う。 6　次時の学習内容を予告する。	5－1　言い方や表情も意識させるようにする。 5－2　よかった点を具体的に伝える。 6　次時に考える内容を予告することで，次時の学習への意欲を高める。	5　言い方や表情も考えて，「よい言い方」で友達や教員と言葉のキャッチボールをしようとする意欲を高める。 （価値的・態度的側面）

※破線部分は学習活動全体における配慮事項（合理的配慮）

＊文が不自然になっている時や，適切な言い方がわからない時には，適切な言い方を提示し，復唱させる。

＊板書を整理し，今何を考えるべきなのかがわかりやすいように視覚的に示す。

＊これまでに学習した内容を教室内に掲示しておき，考える時のヒントになるようにする。